

与えられた時間をどう使う？

午後から、市内の小中学校で研究授業が行われる関係で、本日は授業を公開しない生徒は十三時四十五分下校となっている。授業を公開する一年A組、二年C組、三年AB組女子は、北中の代表として頑張ってくださいね。

さて、今日のような早帰りの日は、「四時まで外出しないでおこう」ということになっていました。いわゆる「四時禁」というものですね。授業を公開する生徒たちが授業を終え、最も通学に時間がかかる生徒が帰宅するのが四時ぐらいだということとで設定された時間です。先に書いたように、学校の代表として授業を公開するわけですので、仲間の応援のために遊びや外出を控えましょうと心に訴えかけるのがねらいでした。

しかし、近年、学校に家に帰ってからも生徒たちを拘束するのはおかしいという考え方が世の中に広がり、「四時禁」は最近言われなくなりました。こういう流れを、生徒の皆さんはどのようにとらえているでしょうか。

「四時禁」はルールとして世の人々には映っていたようですが、学校が一人一人の下校後の動きまで把握することはできません。したがって、ルールではなく、組織で生活するときの節度ある姿を示したものであると私は思います。

「四時禁」が言われていた以前は、中学生より小学生の方が外で飛び回っていました。「四時までには家にいようね」と小学生に言い聞かせるのは非常に難しいと聞いたこともあります。無理もないですよ、学校が終われば外で飛び回りたいという気もちは、子どもには当然あるべきものですからね。むしろ、そういう姿の方が見ていて微笑ましいと思います。

一方、中学生はというと、家で過ごす生徒が多くなります。理由は一つではないでしょう。頑張っている仲間のことを考えて自重したり、遊びよりやるべきことを優先させる意識が生まれてきたりするからではないかと私は思います。家族がいないことをいいことに、家でゲームをやりまくっている生徒ももちろんいることでしょう。

与えられた時間は、自分の責任において使しましょう。中学生にもなれば、何をやるべきかが分かった上で行動できるようになるべきです。疲れていれば、休めばよい。テストが近かつたら勉強すればよい。運動不足だと感じれば、トレーニングすればよいのです。今の自分にとって何が必要かを考えて行動すること、まさしくそれが「主体性」です。

童話の「ウサギとカメ」、知っていますよね。勝ち負けはありませんが、あの話でカメが勝ったことによって利益を得た者はいません。大切なのは、自分にとって最適な時間の使い方をすることですよ。